

<金標準、2012 年同様に ECB の動きから金価格の反転へ・・・>



(出所：オアシス)

FOMC の副議長でもあるウィリアムズ NY 連銀総裁は、9 月の FOMC において FF レート誘導目標を 0.25% 引き上げた事は「今年終盤に、あと 1 回の利上げが適切となる可能性がある」と述べ「この措置によって FRB に時間的猶予が生じ、経済見通しをより明確に見極める時間的余裕がある」と発言した事から 10 月の利上げ確率が 70% から 51.1% へ低下、また PCE デフレーターを受け、更に 51.1% から 36% へ低下している。しかし欧州市場におけるフランスの財政懸念を受け、フランス 10 年債は 2002 年以来の高水準まで金利が上昇しており、ECB はユーロ圏消費者物価指数の 3.8% への上昇を受けた利上げ観測も高まりを見せており、FRB と ECB の金融政策の違いが浮き彫りとなり、為替市場でユーロ・ドルが 1.1251 ドルまでユーロ安の動きが続いている。そのため金標準でも 22936 円まで戻りを見せたが、21338 円まで下値を模索している。ただ 2012 年にもユーロ防衛に動いたドラギ ECB 総裁の「何でもやる」の発言を機に金価格は反発しており、売り込む事は避けた方が良いと思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が維持し、シグナルは切り下げている。RCI は短期が切り下げ、長期は下げ止まっている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジに向けた戻りを見せており、22000 円へ向けた値動きに備えるのが妥当に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 6,005,000 円(2026 年 10 月 5 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 89,980 円(2026 年 10 月 5 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>